

ひょう害を受けたリンゴ果実の収穫時の傷の形状

福島県農業総合センター 果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹－リンゴ－気象災害

2 担当者名

岡田初彦、穴澤拓哉、佐藤寛人、高橋堯之

3 要旨

2022年6月3日の降ひょうにより県内の農作物に被害が発生した。所内のリンゴでは、果実に裂傷や打撲等の傷が発生したことから、ひょう害発生時の摘果の指標とするため被害果実の追跡調査を実施した。ひょう害後の摘果では、なるべく小さくて浅い傷で、打撲症状ではないもの、がくあ部付近にとどまるものを残すことで、収穫時のひょう傷が目立ちにくくなる。

- (1) 所内のリンゴ「ふじ」について、降ひょう直後に被害の生じた果実 11 個を調査したところ、29 か所（1 果当たりの傷数 1～4 か所）の裂傷や打撲等の傷が認められた。
- (2) 収穫時のひょう傷の形状は、降ひょう直後に果実表面の浅い裂傷は収穫時にはサビにとどまり、果肉に達するような裂傷は深さ 1mm 以上の陥没状態となった。また、ひょう害直後に打撲症状が認められた果実は、収穫時には果皮直下の果肉に褐変が認められた（図 1）。
- (3) 果実肥大に伴うひょう傷の拡大は、果実の赤道部及びこうあ部で大きく、がくあ部で小さい傾向が見られた（図 2）。

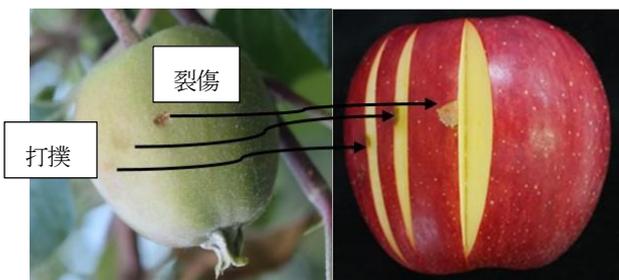


図 1 降ひょう直後と収穫時のひょう傷の変化

注) 今回の結果は、所内の「ふじ」において満開後 39 日に、直径 5mm 程度の雨交じりの降ひょうに 5 分間程度遭遇した被害によるものである。

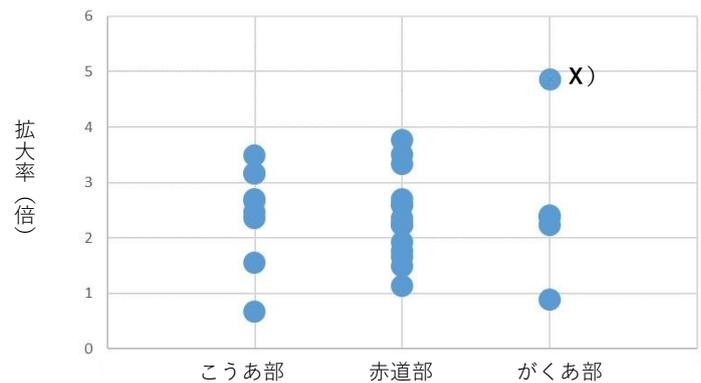


図 2 果実の部位別ひょう傷拡大率

注) x: 降ひょう時に深い打撲であったことから収穫時に傷が拡大した

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3～7 年度
- (2) 研究課題名 温暖化に対応した果樹の生育予測技術及び生育障害対策技術の確立

5 主な参考文献・資料

- (1) 鈴木宏・久米靖穂・田口辰雄, 秋田県におけるリンゴのひょう害調査, 秋田県果樹試験場研究報告, 第 8 号, p.63-92, 1976